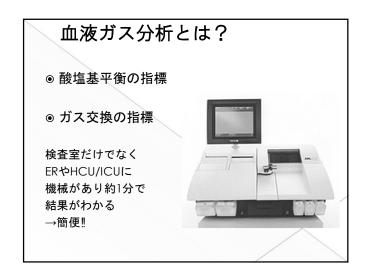
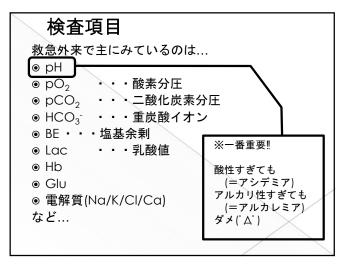
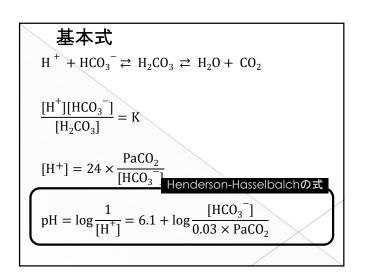
Blood Gas Analysis

救急集中治療医学講座 置塩裕子









代謝性因子と呼吸性因子

代謝性因子(HCO₃: 重炭酸イオン) 腎臓

代謝性アシドーシス: $HCO_3^-\downarrow\downarrow$ 代謝性アルカローシス: $HCO_3^-\uparrow\uparrow$

$$pH = 6.1 + log \frac{[HCO3^{-}]}{0.03 \times PaCO2}$$

呼吸性因子(PaCO2:動脈血二酸化炭素分圧) 肺

呼吸性アシドーシス: $PaCO_2 \uparrow \uparrow$ 呼吸性アルカローシス: $PaCO_2 \downarrow \downarrow$

その他の項目

● BE (Base Excess: 塩基余剰)

体温37℃、pCO2=40mmHg、酸素飽和にした状態で、pH=7.40にするのに必要な酸の量。

→代謝性因子の指標

→マイナス=代謝性アシドーシス

● Lac (Lactate:乳酸)

循環不全により嫌気性代謝しかできなくなっ

た場合に高値となる

→高値=循環不全、代謝性アシドーシス

血液ガスの読み方

- アシデミア?アルカレミア?→緊急性は?
- ⊙ 代謝性アシドーシス?アルカローシス?
- 呼吸性アシドーシス?アルカローシス? →代償されてる?

血液ガスの読み方

代謝性アシドーシスの場合はアニオンギャップ?

 $AG = Na^{+} - (Cl^{-} + HCO_{3}^{-})$

基準値: 12±2 mmol/L - 2.5×(4.0 - Alb)

AG↑の場合

補正HCO₃⁻ = HCO₃⁻ +⊿AG

正常ならシンプルな代謝性アシドーシス

高値なら代謝性アルカローシスも合併(混合性)



基準値とパニック値 _(動脈血液ガス分析)		
рН	7.40 ± 0.05	≦7.20 , 7.60≦
pO ₂ (mmHg)	90±10	≦40
pCO ₂ (mmHg)	40±5	≦20 , 70 ≦
HCO ₃ - (mmol/L)	24±2	≦14, 40≦
BE (mmol/L)	0±2	≦-10 , 10≦
Lac (mmol/L)	<2	5≦

症例①

⊙ 60代男性

排便後よりに腹痛を認め搬送 血圧低下・呼吸促迫を認める

動脈血液ガス分析 (room air) pH 7.483, pO₂ 85.8, pCO₂ 22.8 HCO₃-16.9, BE -5.1, Lac 2.5, Na 140, Cl 110

評価は・・・?!

症例②

⊙ 80代女性

家族が見に行くと意識がなかったため救急要請

動脈血液ガス分析(O2.5L) pH 7.236, pO₂ 99.2, pCO₂ 63.6 HCO₃-26.0, BE -1.9, Lac 1.4, Na 141, Cl 109

評価は・・・?!

症例③

⊙ 70代男性

感染症(詳細不明)で入院中にショック・意識障害・呼吸停止

動脈血液ガス分析(O2 10L) pH 7.085, pO₂ 264, pCO₂ 39.3 HCO₃-11.3, BE -17.2, Lac 11.3, Na 142, Cl 106

評価は・・・?!

メイロン(NaHCO₃-)の適応?

● 敗血症性ショックpH ≥ 7.15で循環動態安定を目的としたメイロン投与しないpH≤7.2かつAKI (AKIN score 2 or 3)でメイロン投与推奨

Weak recommendation, low quality of evidence (Surviving Sepsis Campaign Guideline 2021)

糖尿病性ケトアシドーシスpH>7.0でのメイロン投与は予後を改善しないpH<6.9に関してはRCTなし (World J Diabetes, 2018;9:199-205.)

アルコールまたは飢餓によるケトアシドーシス メイロンは投与してはいけない (Emerg Med Clin North Am 2014)

心停止 メイロンのルーチン投与は予後を悪化させる 特殊な状況(高Kや三環系抗うつ薬などNaチャネル遮断作用を持つ 薬物中毒による心停止)で考慮 (AHA CPR&ECC guidelines 2020)

症例④

⊙ 70代男性

呼吸苦増悪で家人に連れられ来院 顔面苦悶様、呼気延長あり

動脈血液ガス分析 (room air) pH 7.235, pO $_2$ 28.2, pCO $_2$ 78.5 HCO $_3$ 32.1, BE 2.6, Lac 1.0, Na 140, CI 108

評価は・・・?!

症例⑤ おまけ

⊙ 70代男性

自宅で泡をふいていた ショックではないがぼーっとしていて体が冷たい

動脈血液ガス分析 (O2 10L) pH 7.114, pO₂ 259, pCO₂ 15.7 HCO₃-7.4, BE -23.2, Lac 20, Na 140, Cl 104

評価は・・・?!

症例⑤ おまけ

- ⊙ 血液ガスと温度補正
- 体温が1℃低下すると... pH +0.0147 pO₂ 7.2%↓

 $pCO_2 4.4\%$

- 補正しない場合、pH低め、pO₂高め、 pCO₂高めに算出される
- 補正をするかどうか、どちらの値で評価を 行うかはcontroversial

症例⑤ おまけ

⊙ 来院時

動脈血液ガス分析 (O2 10L:BT30°C補正後) pH(T) 7.114, pO₂(T) 259, pCO₂(T) 15.7 HCO₃-7.4, BE-23.2, Lac 20 ※ pH 7.011, pO₂ 421, pCO₂ 21.2

● 2時間後(輸液と加温)

動脈血液ガス分析 (room air: BT37°C) pH 7.407, pO $_2$ 79.8, pCO $_2$ 28.0 HCO $_3$ $^-$ 19.3, BE -6.6, Lac 12.5



Take home messages...

- 血液ガス分析は酸塩基平衡/ガス交換の指標 になり簡単に測定できる
- 緊急性の有無の判断(pHのパニック値)と その原因評価(代謝性or呼吸性)とは すぐ出来るようにしておく



